

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A) 昭61-290902

⑫ Int.Cl. ¹	識別記号	序内整理番号	⑬ 公開 昭和61年(1986)12月20日
A 43 B 5/14 // A 43 B 3/02 23/02		7112-4F 7112-4F 6617-4F	審査請求 有 発明の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 オートバイ用ブーツ

⑮ 特願 昭60-132680

⑯ 出願 昭60(1985)6月18日

⑰ 発明者 小山 昭男 東京都世田谷区千歳台4丁目30番11号 株式会社極東内

⑱ 出願人 株式会社 極東 東京都世田谷区千歳台4丁目30番11号

⑲ 代理人 弁理士 増田 竹夫

明細書

1. 発明の名称

オートバイ用ブーツ

2. 特許請求の範囲

1. ブーツの筒長部の両側又は一側に前方を向いて開口した空気取入口を形成し、

空気取入口に連通し筒長部を下方に延びる下端閉塞の空気通路を形成し、

空気通路の下端側にブーツ内と空気通路とを連通せしめる連通孔を形成したことを特徴とするオートバイ用ブーツ。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

この発明は、オートバイ用ブーツに関するものである。

(従来の技術)

従来のオートバイ用ブーツは、ライダーの足並みに脚部を保護するために、堅牢に作られ、雨の日の雨水の侵入を防ぐために防水加工を施したものが殆どであった。

(解決しようとする問題点)

従来のオートバイ用ブーツは、堅牢で防水性があるために、長時間履いていると足がむれて股さ心地の悪いものであった。

そこで、この発明は、堅牢でかつ防水性を持ってはいるが、足がむれないようにしたオートバイ用ブーツを提供することを目的とする。

(問題点を解決するための手段)

上述の目的を達成するため、この発明は、ブーツの筒長部の両側又は一側に前方を向いて開口した空気取入口を形成し、空気取入口に連通し筒長部を下方に延びる下端閉塞の空気通路を形成し、空気通路の下端側にブーツ内と空気通路とを連通せしめる連通孔を形成したものである。

(作用)

この考案のブーツを履いてオートバイに乗ると、走行中空気取入口から空気が急速に取り入れられ、この空気取入口の終端にぶつかった空気は下方に延びる空気通路を通り連通孔からブーツ内の足にふきつけられることとなる。

特開昭61-290902 (2)

(実施例)

以下にこの考案の好適な実施例を図面を参照しつつ説明する。

ブーツ1は足を覆う本体部2と筒部分から踝にかけて覆う筒長部3とを一体成形して作られている。この筒長部3の両側に前方、すなわち走行中に風圧を受ける位置に向かって開口した空気取入口4を形成してある。この空気取入口4は、第2図に示すように、幅方向に厚みを分突出した形で形成してある。この空気取入口4は、シェル5で囲まれている。このシェル5の開口部が空気取入口4となり、この空気取入口4にはアリ5aが形成してある。このシェル5の下側は筒体6と連結してあり、この筒体6内に空気取入口4と連通する空気通路7が形成してある。この筒体6はブーツの筒長部の下方に延び、下端が閉塞されている。空気通路6の下端側にブーツ内と空気通路6とを連通せしめる連通孔8を形成してある。空気取入口4からセル5内に入り込んだ空気は、第3図に示す矢印方向に送られ、すなわち空気通路7内を

た空気取入口を形成し、空気取入口に連通し筒長部を下方に延びる下端閉塞の空気通路を形成し、空気通路の下端側にブーツ内と空気通路とを連通せしめる連通孔を形成したので、オートバイ走行中に、このブーツを着用したライダーは、空気取入口がかなりの風圧を受け、この空気取入口に多量の空気を入れることができ、入れられた空気は空気通路を通り足の所望の箇所に空気をふきつけることができるので、足のむれが防止される。また、空気取入口は前方を向いて開口されているために、雨中での走行時にも水滴がブーツ内に入り込むおそれは少なく、この空気取入口にメッシュ等の生地を取付けておけば、さらに雨滴が入り込むことは完全に防止できる。

4. 図面の簡単な説明

第1図はこの発明の好適な実施例を示す斜面図、第2図は空気取入口を示す正面図、第3図は断面図、第4図は表皮部材に空気取入口並びに空気通路を形成する手段の斜視図、第5図は表皮部材を内側から見た展開平面図である。

通り、連通孔8からブーツ内へ送られる。

このような空気取入れのための機構を形成する手段としては、ブーツの筒長部3とは別個に、第4図に示すような表皮部材10をプラスチック材料等で成形することが望ましい。プラスチック製の表皮部材10の所定の箇所にシェル5や筒体6を射出成形等により一体成形することができる。第4図において、表皮部材10の内側からシェル5並びに筒体6の箇所を見ると、L字状の溝が成形された恰好となっている。この表皮部材10をブーツの筒長部3に接着あるいは接着するようになっている。

上述した実施例では、筒体6はまっすぐ下方に直線的に延びさせているが、足の指先に空気がふきつけるように空気通路7をカーブさせて設け、連通孔8も足の指先に当る箇所に形成してもさし支えないことは勿論である。

(効果)

以上説明したように、この発明によれば、ブーツの筒長部の両側又は一側に前方を向いて開口し

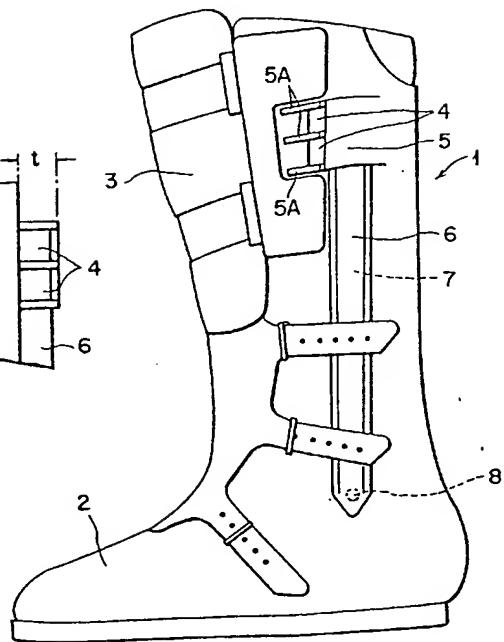
- 1 ……ブーツ、
- 3 ……筒長部、
- 4 ……空気取入口、
- 7 ……空気通路、
- 8 ……連通孔。

出願人 株式会社 極東

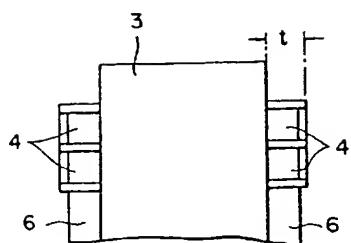
代理人 弁理士 増田 竹夫

特開昭61-290902 (3)

第 1 図

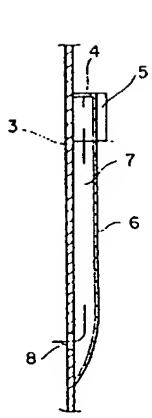


第 2 図



第 5 図

第 3 図



第 4 図

